

フィンランド教育の成功に関する一考察 ～日本教育と比較して～

A Study on the success of the Finnish education -In comparison with the Japanese education-

1K04B157-6

仲川 恵理子

指導教員

主査 友添秀則先生

副査 寒川恒夫先生

目的

今日、日本の学力低下が騒がれている。教育基本法改正や、総合的な学習の時間の削減、完全学校週5日制の廃止の案など、今後の日本教育の方向性は模索中である。そこで、2003年度のPISAで世界第一位の学力を持つとされたフィンランド教育に注目し、その成功に関して考察する。目的は以下の2点である。

まず、フィンランド教育が世界第一位になった成功の理由を明らかにすることである。社会背景、教育方針、教育方法、学校の実態などを調べ、その成功にせまる。

次に、フィンランド教育と日本教育を比較し、今後の日本教育の課題を検討することである。フィンランド教育に学び、吸収すべきところはどこか、そして現在の日本の教育方針における改善すべき点を考える。

方法

方法は、フィンランド教育、日本教育に関する文献や論文、そして現在の教育課題・問題の現状に関する文献やデータを参考にする。

また、本論文では、幼児教育と義務教育を中心に扱うものとする。フィンランドの福祉システムや国の歴史などは、必要があれば触れるが、基本は扱わないものとする。

まとめ

【第1章】 PISA とは

PISA とは、OECD による国際的な生徒の学習到達度調査のことである。15歳の生徒を対象に、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー、問題解決能力の領域で構成されている。PISA は、情勢の変動が激しい現在の社会を生き抜いていくのに必要とされる実践力や応用力、思考力や創造性を評価するテストである。

【第2章】 フィンランドが世界一になった理由

教育方針の特徴として以下の8点が挙げられる。

- ・一人ひとりを大切にする平等な教育
- ・教育の基本は、子どもが自ら自分のために学ぶこと

- ・総合制で、選別しない基礎教育(義務教育)
- ・少人数制教育の実施
- ・低学力層の底上げ
- ・ゆとり教育
- ・質の高い教師と、教師が働きやすい職場環境
- ・すべての義務教育の無償制

また、このほかにも図書館の意義も大きい。フィンランドは読解力が世界トップを誇るが、図書館利用率も世界一である。本を読むという行為は、国語力の育成に効果的である。

【第3章】 フィンランドの家庭教育の実態

フィンランドには、育児を支える充実した福祉制度と子どもの育つ魅力ある環境がある。国からの手厚い支援が、出生率の向上に繋がっている。

また、フィンランドの会社は始業も終業も早い(午前8時～午後4時頃)ため、夕食は家族全員で早めにとる。プライベートや家族で過ごす時間を大切にするので、家庭での教育がしっかりとされる。

【結章】

フィンランド教育が世界一になった大きな理由は、読書率の高さ、国の福祉が支援する教育の平等な機会の保障、少人数学習や個人学習によるきめ細やかな個々への支援、教師の質の高さなどである。きわめて高い学力を育てていくよりも、低学力層の底上げを重視する考え方が、世界一の学力に大きく貢献している。また、子どもも教師も身体的・精神的にもゆとりある環境で、精練された優れた教師により、自主性や共同性を強調する教育を受けることが大事である。

一方、日本の教員は、教科の授業以外の仕事が多岐に多く、心身ともに負担を感じている。また、1学級の生徒数は40人前後が平均であり、国際的にみると非常に生徒数が多い。これでは個々に応じたきめ細かい支援ができない。これを解決するには、ゆとりある環境を作り出し、質の高い教師を養成し増やすこと、教師の仕事を厳選し雑務などを社会全体でフォローしていくこと、学級編成も少人数制にするなどの工夫が必要である。そして、日本教育の目指すべき目標をしっかりと方向付け、国全体で忍耐強く努力し続けることが大事である。